

## 第1回 「一宮の魅力ある海岸づくり会議」議事メモ

日時：平成22年6月27日(日) 午後1時30分～3時30分

場所：一宮町保険センター3階会議室

### 1 開会

司会：一宮町都市環境課 土屋

- ・会議進める上でのお願い
- ・資料の確認
- ・委員紹介

### 2 町長挨拶 一宮町長

### 3 会議の設立主旨 一宮町都市環境課 土屋

### 4 議題

#### (1) 会長及び副会長の選任について

下記の通り選任し、委員の承認を得た。

会長：日本大学工学部海洋建築工学科 近藤健雄 教授

副会長：日本大学工学部海洋建築工学科 宇多高明 客員教授

#### 近藤会長

会長職を仰せつかりました近藤です。町長がおっしゃる通り、大変美しい海岸が現在失われてきている。今後は背後地の状況も考えた総合的な侵食対策の実施が必要になってくると考えている。海岸法が改正されて10年がたち、防護・環境・利用を考えた対策についてもこの海岸ではどう行っていくのか、今日、明日で決定できるものではないが、慎重に検討する必要がある。行政の方も現在までに、膨大な費用を投じて侵食対策を行ってきている。この会議を通じて、三位一体で対策方法を考えていく必要がある。

#### (2) 会議の進め方について

- ・事務局より規約説明

#### (3) 一宮海岸の現状等について

#### 近藤会長

資料3, 4, 5で説明をお願いします。

#### 宇多副会長

4月10日にお話していますが、来ていない方もいらっしゃるので重複しますが話します。

【以下、スライド説明】

近藤会長

続きまして、清野先生に環境面のお話を頂きます。

清野委員

清野です。今まで九十九里の海岸を見てきて、侵食が進んできていてどうしたものかと考えていた。千葉県は過去に住民との会議を適宜で設けてきており、そういった意味では日本の海岸のトップランナーである。今回も住民の方々にいろいろな情報やご意見を頂きたい。

【以下、スライド説明】

九十九里浜は昔から侵食対策を行なってきたのでデータを持っているが、それは行政が取ったデータ、皆さんにお願いしたいのは皆さんの視点で集めたデータを頂ければ助かる。

近藤会長

続いて今までの侵食対策事業の概要について説明をお願いします。

事務局 星上

星上です。侵食対策事業の概要について説明させていただきます。

【以下、スライド説明】

近藤会長

3者の方から、九十九里浜の現状と環境、また県の考えている事業の内容を説明いただいた。委員の方からご意見はあるか？

吉田委員

離岸堤やヘッドランドの計画する時は、流れを見ているのか？流れが一番関係していると考えている。

宇多副会長

計画時に流れも検討を行なっている。

吉田委員

以前よりも激流になっていると思うがどうか？

宇多副会長

場所はどこか？

吉田委員

東浪見である。現在沖にブロックを設置している、HL6や、8の場所。検討していると言うが、あなたたちは、時化している時の海岸に来ていなく、時化の時の流れを見ていないのがまずい。

宇多副会長

季節的な検討は見ている。予測もしていないという事ではなく、千葉県と検討は以前より行なってきた。

吉田委員

潮の流れを完全に止めれば必ず砂はつく。なぜそういう方法をとらないのか。

宇多副会長

それでは一宮海岸から下手の白子町などがより侵食することになる。

吉田委員

北九十九里の方、匝瑳もひどい。飯岡の港に砂がいつてしまっているからである。

近藤委員

私の方の意見は逆。これ（HL 事業）をやらなかったらどうなったかと考えた方が良い。これをやったからどうかというのは、昨日今日見てきた人間が言う事である。議論については、一部が騒いでいる感もあるが、私の友人達などには、他の違う意見を持つ人間も大勢いる。それをご理解いただきたい。

宇多副会長

一宮町長も冒頭でおっしゃった通り、未来をつくる事業を行なってきた。

近藤委員

20年前からヘッドランドを造っているが、事業の終わりの方になって、なぜこのような反対意見が出るのか。なぜ事業の始めに意見を言わなかったのか。このような会が出来たのも、一つはそのような反対意見が出てきたからである。

清野委員

九十九里浜の侵食については、10年間ほどいままです沿岸の方々に地域社会として砂浜をどうされたいのか具体的なご意見をいただきたいと申し上げてきたが、このような運動は出てこなかった。

芝本委員

いろいろなご意見もあると思う。ヘッドランドの工事や砂浜が無くなった事などについて、一宮町がどのようにしたら良い町になるかを考える事が出来る会にしたい。

近藤委員

それは、行政に対しこぶしを振り上げる前に言わなければいけないのではないかと。昔からの住民が反対意見を出さないのに、後からの人が相談もせず、地元意見として反対意見を出すのは良くないと考える。反対意見の方はよく勉強し、知っている方々の意見を聞く事が大事である。

近藤会長

他のかたの意見も聞きたい。中村委員はどうか？

中村委員

自分も昔から海に入っている。堤防が直接的な原因かはわからないが、昔は砂浜が広がったが、今では砂浜が狭くなりつつある。今は一宮の海に憧れて年間何万人の方々が一宮に来ている。6号堤の消波ブロックが入った時は、サーファーの方から県の方に、説明を求める署名を行なった。

近藤委員

それは少し事実と違う。署名文書には、即刻中止を求めると文書にあった。

斉藤委員

HL1-2号堤の間に離岸堤があるが、砂がついた。あの場所はナガラミの漁場である。ナガラミの産卵地で、どんどん増えている。隣の所は無くなっている。潮の流れが変わって、瀬が無くなったのが関係しているのではないか。

近藤委員

今ではHL2-3号間では、ハマグリが生まれている。今まではハマグリはいなかったはずだ。

斉藤委員

とにかく養浜を実施してもらい、浜を増やしてもらうのが重要である。本日は土木の方があまり見えないが、昨年からもお願いしている。

宗形委員

私は一宮町に越してきて10年程だが、その当時はまだ砂浜が広がった。5年前ぐらいから、浜が狭くなり、場所によっては立入禁止などの看板が立っている。なぜこのようになったのが疑問である。先程芝本委員の話にあったように、一宮を良い町にしたい。

河野委員

私は越してきて30年ほどだが、国土を守るという観点では、現状の対策は悪い方向ではないかと思う。

田邊委員

私は昔からだが、近藤委員の言うとおりに、ヘッドランドによって砂はついた。最近ハマグリが採れたという事は良く聞く。町が良くなるには、海で泳ぐことができなければダメだ。もう少しヘッドランドを延ばして、離岸堤を設置して、安全な海水浴ができる海岸にしてほしい。一宮は地の利が良いので、良い観光になるはずである。

大橋委員代理

5歳の頃から太東下海岸で楽しんできた。今の海岸は昔と違ってきており、私が思うのは、太東漁港防波堤が延びるほど侵食が進んできている。今では松林に迫るほど。昔は対策でL字を入れたが、法先が下がってしまった。次に消波ブロックを入れた。ある時から、吉田委員が漁業用のロープを入れている。そこには砂がついている。

近藤委員

そのロープは一宮海岸の中央に入れられるのか？

斉藤委員

それには反対する。一宮海岸では漁業をやるので、もし、ロープが沖に流れたら大変な事になる。

大橋委員代理

吉田委員のものは理論がしっかりしている。

近藤委員

侵食対策については、県の方々は昔から考えている。提案するのであれば、きちんと考えなければいけない。

小松委員

先程の説明で、HL2-3号の縦方向のヘッドランドは砂がついているというのはわかった。今後はどう事業を進めていくのか？今後での話でいくと、どのような海岸にすべきか、地元住民の方で区分けなどを考えていければと考えている。ヘッドランドの事例でいうと、例えば茨城県鹿島のヘッドランドでは、ヘッドランドの周りで立入禁止になってきている。過去の事例も含めて、九十九里浜では、どういう砂の付き方を我々地元が望んでいるのかという事を、整理していく必要がある。

宇多副会長

詳しく話すと、片貝漁港などに堆積している砂は、汀線付近にはあまり寄与しなく、だいたい水深4mより沖に堆積する。しかし、それらの材料が不要ではなく、生物などにとって大切な揺り籠になる。他の県の侵食対策では、例えば茨城では、礫を入れて3年ほどで浜が見事に回復した。しかし、九十九里浜では、昔からの砂浜を考えて礫を入れて欲しくないという意見がある。新しい不法を模索する必要がある。先程の近藤委員の意見にあったように、最近HL2-3号間に砂浜がついたという報告がある。これについては、太東南の0.3mmほどの砂を投入した時期とかぶる。構造物だけ設置しても不十分であるのは、日本全国の海岸の事例でわかっている。構造物と同時に、効果的に砂を入れて浜を戻す必要がある。

また、先程の小野委員の話にあった、鹿島のヘッドランドは年間3、4人死んでいる。よって、行政として警察と協調しあのような看板を立てている。

近藤委員

宇多先生に意見を伺いたい。HL2-3号の間でサンドバイパスを行なってはどうか？ヘッドランドの基部にある砂を中央に持ってくる方策。距離も短いためすぐできる。基部の砂は他の砂と入れ替える。

宇多副会長

今の近藤委員の案はおもしろい意見。ヘッドランド基部の砂と持ってきた浚渫土砂などを置き換えて、中央に入れるという一つの意見。もちろん浚渫土砂は環境に問題がないものである必要があるが。即効性があるかと思う。

近藤委員

あまり地元住民が意見を言いすぎると、県が対策をやりにくくなるのでは？

近藤会長

委員の言われるような事はなく、あまりにも長引くと困るが、地元の方々の意見を聞いて事業を進めるというのは、大変有意義で貴重なことである。

清野委員

今までは、九十九里浜が大変なことになっていると話題になっても、地元では、海岸の危機に対して無関心な所があった。今では元気な若い意見が一杯出てきているので、県は地元の多くの方々が砂浜を守りたい強い意志があるとわかり大変助かっていると思う。

近藤会長

次回に向けて、いろいろとお話を伺いたい方を選出したいと思います。斉藤委員、秋山委員、近藤委員にお願いしたいと思います。

宇多副会長

私はサーファーの方、中村委員に、過去東浪見が世界大会をやった理由を教えてください。

近藤会長

一人15分、短くて5分でも良く、また代理でもいいが、4人で1時間ほど色々のお話を聞かせて頂きたい。事務局から連絡事項はあるか。

事務局

今回は9月の下旬を考えている。皆様にご協力をお願いしたい。

近藤会長

本日は、様々なたくさんの意見を頂いた。まだ発言を遠慮されているような所も見えたが、どんどん意見を出して頂きたい。

齊藤委員

太東漁港の砂を、漁港事務所と県と共同で一宮の方に運んでいただきたい。これは三者が喜ぶこと。

近藤委員

今回は、先程お願いしました4者に、お話を頂きたいと考えている。また、今回は清野委員の要望で現地見学会なども開催したいと考えている。現地見学は希望者のみの参加で。

5 閉会